

未来につながる大切な水

樋口 滉大

筑後市立 二川小学校

この前の社会科見学のときわたし達は、初めて浄化センターに行きました。

話を聞いてみて最もおどろいたのはなんといっても一日にこった水がプール三十三杯分も流れてくることです。しかし、水をきれいにする浄化にも、いろいろな取り組みがあります。たとえば合併浄化槽や沈砂池などがありこのほかにも何種類かの機械があります。反応タンクにはいくつもの活性汚泥がどろを食べて大きくなり、フロックというどろのかたまりになって、沈殿池にしみずみ、しずんだ後、塩素混和池で塩素などを加え殺きんして安全な水にします。塩素で殺きんできることを初めて知りとてもおどろきました。どろはだっ水してだっ水ケーキになります。だっ水ケーキはその名前のイメージから、においが甘いと思っただんですがとてもにおいがききょうれつだったのでびっくりしました。だっ水ケーキはトラックで運ばれます。

下水道にゴミや食べのこしを流すと下水管がつまります。下水管がつまりると浄化センターの重要な機械がこわれてしまったり、下水管を点検するためのマンホールから汚れた水がふき出してしまったりして町が汚れてしまいます。だからぼくもなるべくごみを出さないように気をつけます。

みなさんは水のじゅんかんを知っていますか。まず雨がふってダムに水がたまり、上水道をとり家や学校に送られます。使った水は浄

化センターできれいにされた水を川や海に流され日光で水があたためられて水じょう気になります。やがて雲になりまた雨がふります。これが水のじゅんかんです。

ですが、二十世紀前半に人間が木を切り、森がこわれてきました。わたしは、木を切りすぎると日本の木がなくなってしまうのでこわくなりました。そして水をためる水源林がなくなってしまうと水が使えなくなります。

またコップ一杯分の牛にゆうをそのまま川や海に流してしまうとおふる十杯分の水を必要とします。川などにそのまま流すと水辺に住む動植物が住めなくなってしまう。汚れた水にふくまれる有害物質を魚類や甲殻類が取り入れるとそのま体内に残るからです。その魚類や甲殻類を人が食べることによって、病を引きおこしてしまうことがあります。

なのでぼくは、牛にゆうなどを下水道に流すことがいけないことが分かり浄化センターの人達が大変なことが分かりました。ぼくもこのようなことをおこさないように、これらのことを心かけて、水を大切に使用していきたいと思います。